

東京大学整形外科 専 門研修プログラム

2018 年度版

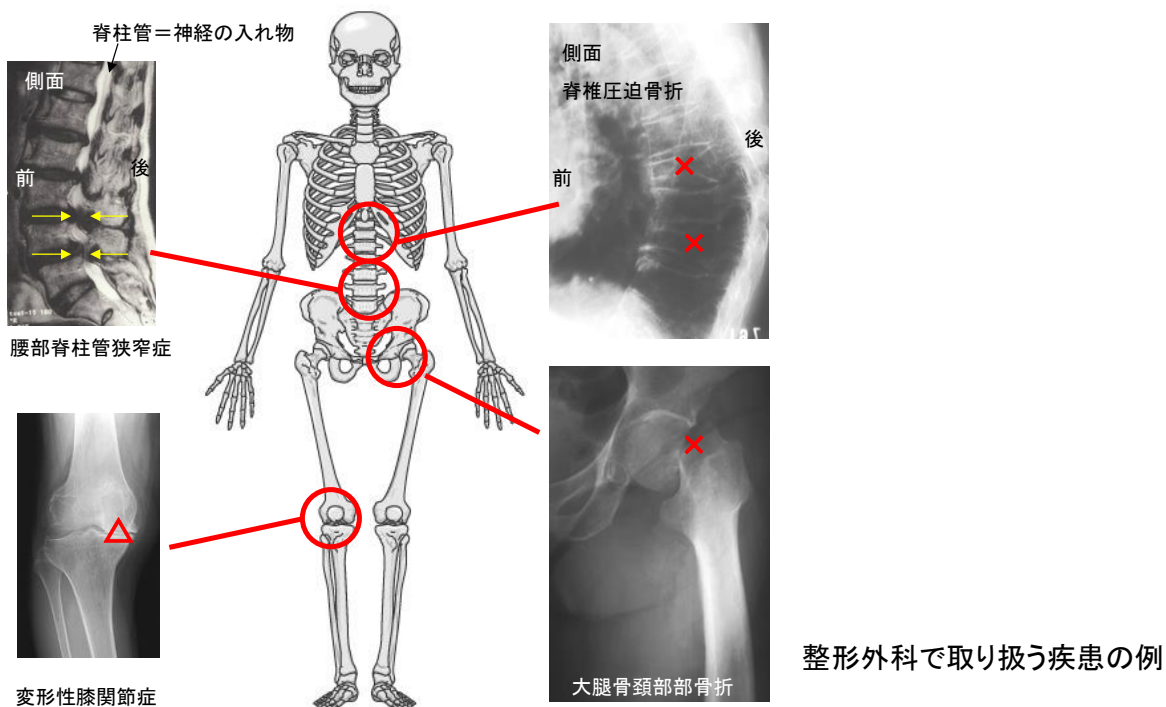
目次

1. 東京大学整形外科プログラムについて	2 頁
2. 東京大学整形外科研修の特徴	3 頁
3. 東京大学整形外科専門研修の目標	10 頁
4. 東京大学整形外科専門研修の方法	12 頁
5. 専門研修の評価について	13 頁
6. 専門研修プログラムの施設群について	15 頁
7. 専攻医受入れ人数について	16 頁
8. 地域医療・地域連携への対応	16 頁
9. サブスペシャリティ領域との連続性について	16 頁
10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	16 頁
11. 専門研修プログラムを支える体制	17 頁
12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について	17 頁
13. 専門研修プログラムの評価と改善	18 頁
14. 専攻医の採用と修了	19 頁
連携施設一覧:新患数+手術件数	20 頁
連携施設紹介	21 頁
東大整形 週間予定	32 頁
東大整形 年間予定	33 頁

1. 東大整形外科プログラムについて

整形外科は「運動器」を扱う診療科です。運動器は動物の生命を維持するために必要不可欠な活動である「運動」を担う器官の総称で、骨、関節および筋など直接運動に関与する組織、さらにはこれらの働きを制御する神経系などを含みます。これら運動器の構成成分である各組織は、それぞれが固有の役割を果たすとともに、お互いに密接な関連をもちながら身体運動という高度な生体機能を実現しています。

運動は人間にとって根源的な機能です。このため運動器の健康を維持することは、人間が人間らしく生きるために大変重要な意味をもっています。人口の高齢化が進むわが国においては、介護を要する患者が激増していることが問題になっていますが、介護に至る大きな原因の一つが骨折や関節疾患など、運動器の問題であることも、運動器の重要性を示す一つの証拠とすることができます。高齢者に運動器障害が生じやすいのは確かですが、運動器のケアが必要なのは高齢者だけではありません。トップアスリートや一般の人々のスポーツ障害、骨折や捻挫などの外傷に対する予防や治療も整形外科が担う分野です。また生まれながらにして運動器に障害を有する先天性運動器疾患に対する治療も行います。以上のような理由から、整形外科に対する社会のニーズは今後ますます高まっていくことが予想されます。



東京大学に日本で初めての整形外科教室が設立されたのは 1906 年のことです。それ以来百年以上にわたって、東京大学整形外科はわが国の整形外科医療を中心となって牽引してきました。連携施設に規模の大きな病院が多いのはそのためです。関節鏡の開発や脊髄電位測定、寛骨臼回転骨切り術や棘突起縦割法など東大整形外科から生まれた画期的な医療技術は枚挙にいとまがありません。しかし我々が大事にしているのは、高度な医療を行うことだけではありません。整形外科専門医を目指す若手医師に対して、整形外科医として身につけるべき知識、技術、考え方、そしてところを伝えることが何よりも重要な仕事であると考えています。

近年の医学は驚異的なスピードで進歩しています。学ぶべき知識や技術は年々増加しており、その修得には大変な努力を要します。ともすれば情報の洪水の中で、どこから手をつけてよいのか途方に暮れてしまうかもしれません。我々は百年を超える伝統の中で築いてきたノウハウによって、知識や技術の伝授に

最適な方法を築いてきました。それは今風に言えば、「屋根瓦方式」といえるようなシステムであり、上級医の直接の指導のもとに、若手医師に実地で経験を積んでもらい、実践の中から真に必要な知識や技術を学んでもらうというものです。今回スタートする東大整形外科プログラムでも、この指導法を踏襲しています。専攻医トレーニングの時代から、皆さんは数多くの患者さんの主治医になり、治療計画を立て、自ら手術を執刀することになります。医師にとって何よりも重要なことは、患者さんに喜んでもらう医療を行うことです。この目標は技術を身につけるだけでも、知識を学ぶだけでも達成することはできません。実際に患者さんに主治医として接し、責任をもって治療・手術を行い、患者さんやご家族と喜びや悲しみを共有することによってはじめて達成できる目標です。これが、我々が実践の中での学びを重視する理由です。

このような教育システムが可能なのは、東大プログラムには大学病院だけではなく、優れた指導者と豊富な症例数を有する多くの連携病院が所属するからです。本プログラムの基幹病院である東京大学医学部附属病院では年間 1,339 件の整形外科手術(2017 年度)を行っており、整形外科のほぼ全分野をカバーしています。整形外科専攻医研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新患数が 500 例、年間手術症例が 40 例と定められておりますが、基幹施設および連携病院をあわせた年間新患数は 91,000 名、年間手術数はおよそ 31,000 件であり(2017 年度)、皆さんは大学病院と連携病院とのローテーションによって、整形外科医に必要とされるすべての専門分野で、バランス良く、充実した研修を受けることができます。また連携施設を合わせた学会発表数は年間 417 回、論文数は 159 報(和文 123 報、英文 36 報 2017 年度)あり、みなさんが臨床研修中には学会発表や論文執筆の機会は数多くあります。本研修プログラム修了後に、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の研修を開始することになります。プログラムの途中で大学院に進学するという選択肢もあります。

最後に私たちがめざしている医療を掲げて、東大整形外科プログラムの紹介とさせていただきます。

- ① 思いやりの気持ちをもって医療に取り組むこと
- ② 卓越した技術のもとに安全・確実な医療を提供すること
- ③ 基礎・臨床研究を通じて未解決な問題に取り組むこと
- ④ 医療や医学を通じて社会に貢献すること

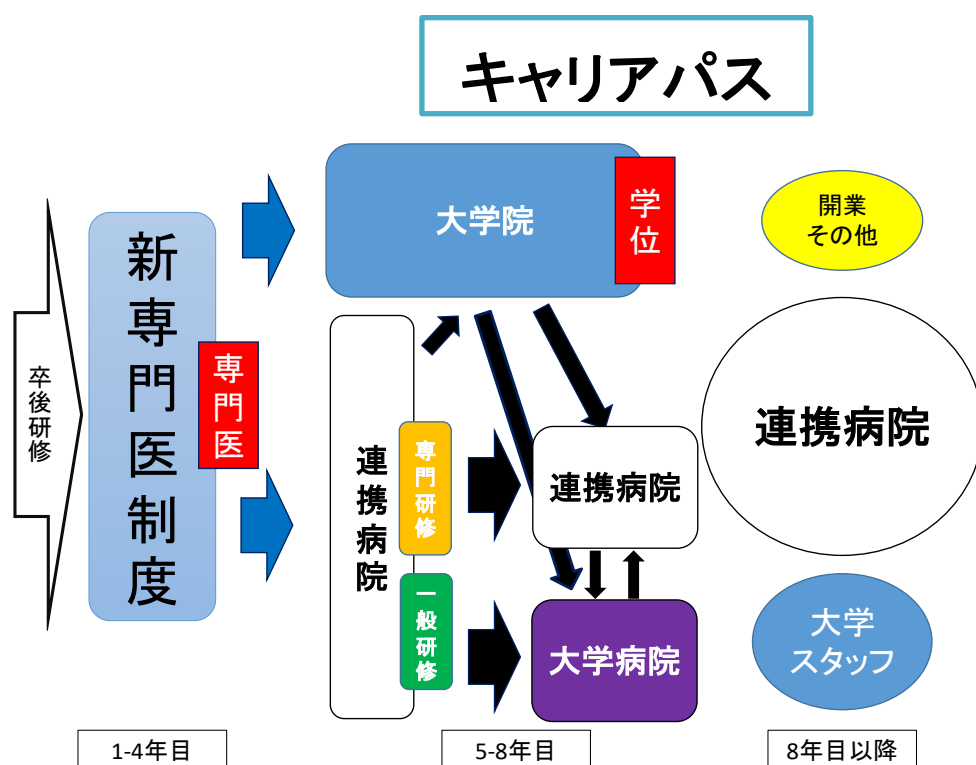
未開拓の整形外科分野を切り開く意欲のある方の応募をお待ちしております。

2. 東京大学整形外科専門研修の特徴

本研修プログラムでは、4 年間の研修期間の中で、整形外科医としての知識や技術の修得はもちろんのこと、医師としてのプロフェッショナリズムや、患者さんの診療やチーム医療に必要なコミュニケーション能力など、臨床医として不可欠な素養を身につけることを目標としています。これまで東京大学整形外科では、初期研修を終えた医師を毎年約 20 名受け入れ、整形外科専門医としての教育をしてきました。今回、新専門医制度のためにこれまでの研修システムを改良し、4 年間で整形外科医としての礎を築き、その後のサブスペシャリティ研修や大学院進学へと切れ目なくつながるプログラムを準備しました。本プログラムは、都内の主要病院や他県の中核病院、地域病院をローテーションすることで、外傷や変性疾患などの一般整形外科から骨軟部腫瘍や骨系統疾患などの稀少疾患まで、幅広く充実した研修ができるのが特徴です。当教室では以前からローテーションシステムを導入し、整形外科ジェネラリストとしての総合力を培うことを臨床研修の第一目標にしてきており、各連携施設が効率的な研修を行うためのノウハウを有しているのが大きな強みの一つです。

本研修プログラム終了後の進路としては、大学院進学、専門施設研修(サブスペシャリティ研修)、一般整形外科研修の 3 コースを用意しています。これまでの経験から、整形外科医として十分な知識と技術を修得し、リーダーとしてチームを牽引する力をつけるには、最低でも 8 年間は必要だと考えています。専門医取得後も、さらに連携病院をローテーションすることで整形外科医としての研鑽を積み、専門分野が決

まった時点で専門施設研修を開始します。また大学院教育にも力を入れており、専門医取得後に大学院で基礎研究や臨床研究に従事することで、リサーチマインドを持った研究医を育成する環境も整備されています。



① 東京大学医学部附属病院整形外科について

東京大学整形外科学教室は 1906 年に開設された日本で最も古い整形外科教室です。「良医を育成する」という伝統は、整形外科の礎を築いた田代義徳教授(明治 39 年～大正 13 年)から高木憲次教授(大正 13 年～昭和 23 年)、三木威勇治教授(昭和 24 年～40 年)、津山直一教授(昭和 40 年～59 年)、黒川高秀教授(昭和 59 年～平成 10 年)、中村耕三教授(平成 10 年～23 年)、そして田中栄現教授(平成 24 年～)まで、脈々と受け継がれてきています。現役で活躍している同窓会員は 800 人を超える、日本最大規模の整形外科学教室です。連携病院を含めた年間総手術件数は 30,000 件を超え新患者数は 90,000 名にも及びます。その中核にある大学病院では、他院で治療を行うことが困難な症例を中心に、年間約 1,300 件の手術を行っています。時代の変遷とともに大学病院で扱う疾患は変化していますが、現在は高齢化に伴う変性疾患を中心に、骨軟部腫瘍や骨系統疾患などの稀少疾患も数多く治療しています。外傷の手術などの一般的な手術も多数手がけるとともに、ナビゲーションを用いた人工関節置換術や前十字靱帯再建術、内視鏡を用いた脊椎手術など最先端の技術を駆使した治療や、悪性骨軟部腫瘍の広範切除術の症例も多く、幅広い疾患に対応しています。また大学病院ならではの超難治症例については、血管外科、呼吸器外科、形成外科などと連携してチームを編成し、合同で行う手術も増えています。

リハビリテーション部及び救急部とは密な協力体制をとって診療を行っています。リハビリテーション部は芳賀信彦教授を含め 3 名の整形外科出身スタッフが勤務しており、協力して術前術後のリハビリテーションに取り組んでいます。また救急部には中島勸センター長をはじめ、外傷チームが整形外科から配属されており、整形外科と連携して主として外傷の診療にあたっています。最近ではこれらの部署と共同で骨転移ボードと脊髄損傷ボードを立ち上げ全国的に脚光を浴びています。

※週間予定表は巻末にあります。

② 専門グループ

現在 11 の専門グループがあり、1-9 までは大学病院で手術も行います。

(1)脊椎診: 頸椎・胸椎・腰椎疾患、側弯症、脊髄腫瘍、悪性腫瘍脊椎転移、脊髄損傷などを中心に診療を行っています。手術に際しては、脊髄電位モニタリング、ナビゲーションなどを使用して、正確かつ安全な手術を行っています。最近では内視鏡を用いた脊椎手術症例も数多く手がけています。

(2)関節診(リウマチ外科): リウマチなどの炎症性疾患による関節破壊に対し、各種の人工関節置換術、手足の変形矯正手術を行っています。また生物学的製剤などの薬物療法にも積極的に取り組んでいます。

(3)膝・スポーツ診: 変形性膝関節症、半月板損傷と前十字靱帯損傷に代表される膝関節疾患の診療を行っています。現在治療法の中心になっている関節鏡は、当教室の高木憲次第二代教授および渡辺正毅先生によって開発され、発展しました。前十字靱帯損傷に関しては、わが国で最も古くから取り組んでおり、代表的な診断法である N テストは当教室の中嶋寛之先生が考案された手技です。スポーツによって起こるアキレス腱断裂や Jones 骨折などの治療も行っています。人工膝関節手術も年間 120 件以上にのぼり、常に最新の手技、知見を取り入れて積極的に取り組んでいます。

(4)股関節診: 変形性股関節症や大腿骨頭壊死症に対して人工股関節全置換術や骨切り術を行っています。臼蓋形成不全に対する寛骨臼回転骨切り術は、当教室の田川宏先生が考案された術式です。また近年では、当科で開発した長寿命型の人工股関節は世界的に高い評価を得ています。股関節鏡を用いた治療や検査にも取り組んでいます。

(5)手外科診: 上肢の骨・靱帯・腱損傷を伴う外傷や変性疾患を手術します。また手根管や肘部管の絞扼性神経障害も治療します。マイクロサージャリーにも積極的に取り組んでいます。正確な解剖知識や卓越した手術手技に基づいた治療を行っており、優れた手術成績を残しています。

(6)腫瘍診: 良性・悪性骨軟部腫瘍の手術を行います。悪性腫瘍に対しては、自科で化学療法も行っています。他科との連携も良好に行っています。

(7)足外科診: 近年症例が増加している専門診です。外反母趾、変形性足関節症、麻痺やリウマチによる足部の疼痛や変形を治療します。

(8)外傷診: 高エネルギー外傷、開放骨折、大腿骨近位部骨折、骨盤骨折などあらゆる外傷に対応します。

(9)小児整形診・骨系統診: 小児の運動器疾患全般をあつかっており、先天性疾患や脳性麻痺などの手術を行います。また骨系統疾患の診断と治療も行います。

(10)末梢神経診: 腕神経叢損傷、分娩麻痺、絞扼性神経障害の診断と治療を行います。

(11)脚延長診: 脚長不等、骨系統疾患の脚延長、骨髓炎、難治骨折の治療を主に創外固定で治療します。

サブスペシャリティは、希望に応じて自由に選択できます。専門を決めずにオールラウンダーとして一般整形外科の研修を行ったり、研究医としての道を進んだりすることも可能です。

※週間予定表は巻末にあります。

③ 連携施設

本プログラムは 40 の連携施設からなり、都内の主要病院を中心に近隣県の中核病院も多く含まれています(東京都 22 病院、神奈川県 6 病院、埼玉県 5 病院、茨城県 2 病院、長野県 1 病院、静岡県 2 病院、千葉県 1 病院、栃木県 1 病院)。巻末表のように年間手術件数で分類すると 1000 例以上の**大型総合病院**が 6 施設、約 400-1000 件の**都市型総合病院**が 19 施設、近隣県にある**地域型総合病院** 6 施設あります。地域型総合病院でも年間手術件数が 500 件超の病院も多く、どの病院でも多くの症例を経験できる構成になっています。

総合病院の中には専門性の高い分野に特化した部門を設けている施設もあります（次頁表参照）。これらの施設では総合研修と同時にサブスペシャリティ研修にも触れることができます。

外傷については、すべての病院で万遍なく学ぶことができます。脊椎の専門研修施設は 8 病院あり、それぞれ 300 例前後の脊椎手術を行っています。内視鏡手術から多椎間固定まで豊富な症例を経験できます。関節リウマチの治療については、リウマチ科が併設されている 4 病院で、外科的治療だけではなく、生物学的製剤による内科的治療やリハビリテーションなど、トータルケアを学ぶことが可能です。都立駒込病院には骨軟部腫瘍科があり、骨軟部腫瘍だけで年間 300 例以上の手術を行っています。また小児整形の研修病院も 3 施設あり、特に心身障害児総合医療療育センターは高木憲次第二代教授が心血を注いで開設された歴史ある肢体不自由児施設です。スポーツ整形外科は、前十字靱帯再建術が年間 300 件以上という全国屈指の症例数をほこる関東労災病院や、実業団で活躍している選手の受診が多い東芝病院と JR 東京総合病院、膝関節鏡のメッカである東京通信病院などがあります。手外科は、日手会認定研修施設が 11 病院あり、股関節診は、骨切りを含めた手術を行っている施設が 5 病院あります。末梢神経疾患については高度の技術を要するため症例を集約し、都立広尾病院と横浜労災病院を中心に腕神経叢損傷に対する肋間神経移行術を行っています。最近では、リハビリテーションに興味をもつ整形外科医も増加しており、国立障害者リハビリテーション病院と JR 東京総合病院リハビリテーション科で専門研修を行うことができます。また埼玉医科大学総合医療センター、自治医科大学さいたま医療センター、自治医科大学附属

サブスペシャリティ研修		
脊椎	リウマチ外科	腫瘍
日赤医療センター JCHO 東京新宿病院 NTT 東日本関東病院 武蔵野赤十字病院 三楽病院 横浜労災病院 関東労災病院 さいたま赤十字病院	都立墨東病院 都立多摩総合医療センター 国立病院機構相模原病院 JCHO 湯河原病院	都立駒込病院 自治医科大学附属 さいたま医療センター
	手外科	小児
	都立広尾病院 JR 東京総合病院 東芝病院 横浜労災病院 虎の門病院 東京通信病院 さいたま赤十字病院 関東中央病院 国立病院機構相模原病院 関東労災病院 NTT 東日本病院	心身障害児総合医療療育センター 静岡県立こども病院 都立北療育医療センター
		末梢神経
都立広尾病院 横浜労災病院		
リハビリテーション		
股関節	都立墨東病院 JR 東京総合病院 虎の門病院 国立国際医療研究センター 日赤医療センター	JR東京総合病院 国立障害者 リハビリテーションセンター
膝・スポーツ整形		救命救急
JR 東京総合病院 東京通信病院 東芝病院 関東労災病院		都立墨東病院 埼玉医科大学 総合医療センター

病院という大学病院も連携病院に含まれており、アカデミアでの研修も充実しています。

④ 大学院・留学

臨床におけるさまざまな問題を解決するために、研究は大きな意義を有しています。当教室では、リサーチマインドを持つことで外科医としての視野が広がり、新しい研究や技術が生まれるとの考えから研究を奨励してきました。研修終了後、大学院に進学するコースが用意されています。大学院では 4 年間、臨床業務を負担することなく、研究に没頭できる環境を準備しており、毎年多くの研究成果を生み出しています。

大学内では骨粗鬆症や脊椎・関節の変性疾患の治療標的となりうる遺伝子について、遺伝子改変マウスなどを用いて解析しています。またバイオメカニクス研究についても、臨床例を用いた研究を行っています。教室外の研究サポート体制も充実しており、東京大学内の寄附講座では、軟骨再生、生体イメージング、運動器疾患の大規模コホート研究、次世代の人工関節開発、腰痛を中心とした運動器疼痛等について、わが国をリードする基礎研究・臨床研究に取り組んでいます。また骨免疫学の創始者である東京大学免疫学教室の高柳広教授、がん研究で有名な東京大学医科学研究所の松田浩一教授、わが国のゲノム研究の第一人者である理化学研究所の池川志郎先生、国立障害者リハビリテーションセンター研究所の緒方徹先生（脊髄損傷研究）、澤田泰宏先生（メカニカルストレス研究）は当教室の同窓生であり、これらの施設とは密に連携しながら研究を行っています。その他、東京医科歯科大学、大阪大学、京都大学、奈良県立医科大学等との共同研究も行っています。このように自分の興味を持った分野のトップラボで最先端の研究に従事することができ、整形外科を違う角度から見直す良い機会となるため、毎年多くの大学院進学希望者がいます。

またグローバルな視野を身につけるために、希望者には海外留学の機会を提供しています。海外施設とのパイプは太く、基礎研究、臨床研究いずれの分野でも、毎年多くの留学生を送り出しています。実際には北米を中心に、ヨーロッパやオーストラリアなど、様々な国に留学しています。

国内留学

東京医科歯科大学
大阪大学
京都大学
奈良県立医科大学
金沢大学
癌研有明病院
国立がん研究センター
岩井整形外科（脊椎内視鏡）
榛名荘病院（脊椎外科）
名城病院（脊椎外科）
船橋整形外科（肩関節外科）

海外留学

Harvard Medical School (USA)
Yale University (USA)
Stanford University (USA)
Washington University, St. Louis (USA)
University of California, San Francisco (USA)
University of Pennsylvania (USA)
University of Connecticut (USA)
University of Pittsburgh (USA)
Mayo Clinic (USA)
Hospital for Special Surgery (USA)
Memorial Sloan Kettering Cancer Center (USA)
Hospital for Sick Children (Canada)
Royal Liverpool University Hospital (UK)
Strasbourg University (France)
University of Basel (Switzerland)
Schulthess Klinik (Switzerland)
Innsbruck Medical University (Austria)
Oslo Sports Trauma Research Center (Norway)
University of Melbourne (Australia)

⑤研修コースの具体例

本プログラムは下表のごとく、東京大学医学部附属病院を中心に連携施設をローテーションして必要単位を取得する24のコースを準備しています。多くの施設で幅広い分野の手術を行っており、それぞれの特徴を生かしつつ、脊椎、上肢、下肢、外傷、リウマチ、スポーツ、小児、腫瘍、リハビリテーションと万遍なく一般整形外科の研修を行うことができます。また前述の通り、専門施設も多く含まれていますので専門的な治療を経験することも特徴の一つです。

ローテーション例(専攻医24人分)

プログラム	1年目		2年目		3年目		4年目	
1	大学	関東労災	国立国際		東京高輪		焼津	
2	大学	多摩総合	茨城県中		相模原		東京山手	
3	大学	NTT東日本	横浜労災		浅間		国立国際	
4	大学	横浜労災	おおたかの森		NTT東日本		心身障害児	
5	大学	JR東京総合	日立総合		さいたま日赤		三宿	
6	大学	焼津	相模原		JR東京総合		NTT東日本	
7	大学	国立国際	日赤医療センター		茨城県中		東京通信	
8	大学	茨城県中	都立墨東		東京山手		相模原	
9	武蔵野日赤	大学	都立駒込		焼津		都立広尾	
10	多摩総合	大学	湯河原		健康長寿		日立総合	
11	横浜労災	大学	虎の門		静岡こども		多摩総合	
12	JR東京総合	大学	浅間		東芝林間		東芝	
13	焼津	大学	三井記念		都立広尾		東芝林間	
14	茨城県中	大学	関東労災		東芝		健康長寿	
15	NTT東日本	大学	さいたま日赤		関東中央		関東労災	
16	都立墨東	大学	三楽		多摩総合		おおたかの森	
17	浅間	都立広尾		東京高輪		国立国際		大学
18	日立総合	日赤医療センター		東京山手		三楽		大学
19	おおたかの森	東京山手		NTT東日本		日赤医療センター		大学
20	静岡こども	東芝林間		東京通信		横浜労災		大学
21	虎の門		日立総合		関東労災		大学	東京高輪
22	湯河原		おおたかの森		武蔵野日赤		大学	三楽
23	都立駒込		横浜労災		三井記念		大学	国リハ
24	健康長寿		都立墨東		湯河原		大学	さいたま日赤

例)ローテーションによる単位取得

プログラム2		1年目		2年目	3年目	4年目	
研修施設		大学	多摩総合	茨城県立中央	相模原	東京山手	合計
分野	必須単位数						
1. 脊椎・脊髄	6		6				6
2. 上肢・手	6		3	3			6
3. 下肢	6				6		6
4. 外傷	6			6			6
5. リウマチ	3	2			1		3
6. スポーツ	3		3				3
7. 小児	2	2					2
8. 腫瘍	2	2					2
9. リハビリ	3				3		3
10. 地域	3			3			3
流動	8				2	6	8
合計		6	12	12	12	6	48

プログラム9		1年目		2年目	3年目	4年目	
研修施設		武蔵野 日赤	大学	都立駒込	焼津市立総合	都立広尾	合計
分野	必須単位数						
1. 脊椎・脊髄	6	3		3			6
2. 上肢・手	6				6		6
3. 下肢	6			3		3	6
4. 外傷	6				3	3	6
5. リウマチ	3		2	1			3
6. スポーツ	3	3					3
7. 小児	2		2				2
8. 腫瘍	2		2				2
9. リハビリ	3			3			3
10. 地域	3				3		3
流動	8			2		6	8
合計		6	6	12	12	12	48

プログラム18		1年目		2年目	3年目	4年目	
研修施設		日立総合	日赤医療センター	JCHO東京山手	三楽	大学	合計
分野	必須単位数						
1. 脊椎・脊髄	6	3			3		6
2. 上肢・手	6		3	3			6
3. 下肢	6			3	3		6
4. 外傷	6				6		6
5. リウマチ	3		3				3
6. スポーツ	3			3			3
7. 小児	2		2				2
8. 腫瘍	2			2			2
9. リハビリ	3		3				3
10. 地域	3	3					3
流動	8		1	1		6	8
合計		6	12	12	12	6	48

3. 東京大学整形外科専門研修の目標

① 専門研修後の成果

本研修プログラムでは、運動器疾患に関する幅広い知識・技能と高い倫理観を備え、日々進歩する医学に対応できる柔軟性を身につけた整形外科専門医育成をめざします。中でも当プログラムが重視しているのは、以下の点です。

1) 医師としてのプロフェッショナリズムを身につけること

専門職(プロフェッション)として、豊富な知識や高度な技能修得に努め、適切なインフォームドコンセントのもとに治療方針を提示し、決定できる整形外科専門医を育成します。また高い倫理観を有し、患者や家族のみならず、同僚やメディカルスタッフからも信頼される専門医を育成します。

2) 円滑なコミュニケーション能力を身につけること

チーム医療の一員として、患者ならびにその家族、そして同僚や他のメディカルスタッフとの円滑なコミュニケーションは、医師にとって必要不可欠なものです。高いコミュニケーション能力を有する専門医を育成します。

3) リサーチマインドを身につけること

リサーチマインドを身につけることで、常識や既成概念にとらわれすぎない柔軟性が涵養されます。ケースディスカッションなどを通じて、日々の臨床での「気づき」を明確な疑問に昇華することが、医療を進歩させます。本プログラムでは、豊かなリサーチマインドを有する専門医を育成します。

4) マネジメント能力を身につけること

医療現場における様々なマネジメント能力は、医師としての基礎スキルと考えています。チーム医療の要としての立場を意識して、マネジメント能力の向上をはかります。

5) 医の倫理、医療安全に配慮すること

医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できるようにします。

6) 後進指導を積極的に行うこと

屋根瓦方式を意識し、上級医から受けた指導を、初期研修医、医学生へと伝えることができる専門医を育成します。後進を指導することが、指導を受けた事柄の更なる理解、そして自らの成長のきっかけになります。

② 到達目標(修得すべき知識・技能・態度など)

1) 専門知識

加速し続ける医学の進歩に対応できるよう、運動器疾患に関する幅広い知識を身につけます。専門知識修得の年次毎の到達目標を、別添する資料 1 に示します。

2) 専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)

運動器疾患に関する幅広い基本的な専門技能(診察、検査、診断、処置、手術など)を身につけます。専門技能修得の年次毎の到達目標を別添する資料 2 に示します。

3) 学問的姿勢

臨床的な疑問点を見出して解明しようとする意欲(リサーチマインド)を身につけ、自らでクリニカルクエスチョンを設定し、解決できるようになることを目標とします。そのために、以下の行動目標を定めています。

- i. 生じた疑問を明確に他人に伝えることができる
- ii. 経験症例から研究テーマを立案し研究プラン・プロトコルを作成できる。
- iii. 結果を科学的かつ論理的にまとめ、口頭ならびに論文として報告できる。
- iv. 参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
- v. 研究・発表に用いた個人情報適切に管理できる。
- vi. 統計学的検定手法を選択し、解析できる。

さらに本研修プログラムでは、学術活動として、外部の学会での発表(研修期間中 1 回以上)と論文作成(研修期間中 1 編以上)を必須としています。

4) 医師としての倫理性、社会性など

医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できることが目標です。そのために、以下の行動目標を定めています。

- i. 医師法等で定められた医師の義務を知っている。
- ii. 医療法の概略、特に療養担当規則を理解している。
- iii. 医療行為に関する上記以外の法律(健康保険法・薬事法など)を十分に理解し、遵守できる。
- iv. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる。
- v. DOH (Declaration of Helsinki)、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知っている。
- vi. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる。

また、チーム医療の一員として、患者ならびにその家族、そして同僚や他のメディカルスタッフとのコミュニケーション能力をつけることを目標にします。

③ 経験目標(種類、内容、経験数、要求レベル、学習法および評価法等)

1) 経験すべき疾患・病態

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患・病態を別添する資料 3:整形外科専門研修カリキュラムに沿って研修します。本研修プログラムでは、4 年間の研修期間で広範囲な整形外科疾患を経験・学習することが可能です。

2) 経験すべき診察・検査等

別添する資料 3:整形外科専門研修カリキュラムに明示した経験すべき診察、検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は資料 2:専門技能修得の年次毎の到達目標に示します。Ⅲ診断基本手技、Ⅳ治療基本手技については 4 年間で 5 例以上経験します。

3) 経験すべき手術・処置等

別添する資料 3:整形外科専門研修カリキュラムに明示した経験すべき手術、処置等の行動目標に沿って研修します。本専門研修プログラムでは、どの連携施設に勤務した場合でも、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。必要な症例を経験した上で、経験豊富な指導医の指導のもとで、それぞれの施設の特徴を生かした症例や技能を、より専門的に学ぶことができます。

4) 地域医療の経験(病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など)

別添する資料 3:整形外科専門研修カリキュラムの中にある地域医療の項目に沿って周辺の医療施設との病病・病診連携の実験を経験します。本研修プログラムには、地域医療の拠点となっている施設(地域中核病院)として、焼津市立総合病院、浅間総合病院、茨城県立中央病院、日立総合病院、おたかの森病院等の幅広い連携施設が組み込まれており、これらの連携施設での研修中に、以下のような地域医療研修が可能です。

- i. 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践できる。
- ii. ADL の低下した患者に対して、在宅医療やケア専門施設などを活用した医療を立案する。

5) 学術活動

研修期間中に、日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得します。東京大学整形外科同門会が主催する研究会も多数開催されており、受講が推奨されます。また研修期間中に、指導医の監督下に 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文作成を必須とします。これらの活動を通じて、現状の医療に満足せず、一歩先の医療を確立し、患者さんに還元することで社会貢献することを目指します。

4. 東京大学整形外科専門研修の方法

① 臨床現場での学習

整形外科研修で経験すべき疾患は多岐にわたります。本プログラムでは、1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。別添した研修方略(資料4)に従って全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍という10の研修領域に分割し、東京大学医学部附属病院および連携施設のローテーションの中で、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、4年間で48単位を修得します。このようなトレーニングによって、整形外科すべての分野の疾患に対応するジェネラルな臨床能力を修得することができます。

手術手技の修得は、整形外科専攻医研修の大きな目標です。本研修プログラムでは、基幹施設および連携施設で手術手技を600例以上(術者としては300例以上)経験することができます。術者として経験すべき症例については、別添する資料3:整形外科専門研修カリキュラムに示した(A:それぞれについて最低5例以上経験すべき疾患、B:それぞれについて最低1例以上経験すべき疾患)疾患の中のものとします。

各施設では、カンファレンスで症例のプレゼンテーションをすることで、診断や治療法選択に対する洞察力を身につけ、手技および手術の方法を深く理解することができます。

各施設の指導医は上記の事柄について、責任を持って指導します。

具体的な年度毎の達成目標は、資料1:専門知識修得の年次毎の到達目標及び資料2:専門技能修得の年次毎の到達目標を参照のこと。

② 臨床現場を離れた学習・学術活動

専攻医には、日本整形外科学会学術集会をはじめとした、さまざまな関連学会や研究会への参加が推奨されます。学会でおこなわれる教育研修講演(医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む)やセミナーなどを聴講することで、国内外の標準的な治療、および先進的・研究的治療を学習することができます。特に本研修プログラムでは、年度始めに専攻医が一堂に会して新人研修を行い、東京大学整形外科が主催する年4回の整形外科卒後研修セミナー(6月、12月の医局研究会、9月開催のOSCAR、2月開催の淡青運動器セミナー:計4年間で32講演)に参加することにより、各整形外科分野のトップランナーからの多領域にわたる最新の知見に関する講義を受けることができます。毎年3月には専門グループ報告会を開催しており、各専門グループの実績や最新の治療について学習することもできます。また各専門グループの勉強会は一年中開催していますので(年間予定表参照:22頁)自由に参加してもらい希望すれば、他の連携施設での手術見学や手術手技セミナーなどを通じて、様々な手術手技の修得が可能です。

これ以外にも、日本整形外科学会などが作成するe-Learningやteaching file、卒後研修用DVD等などを活用して、診断・検査・治療等についての学習を深めるとともに、自らの知識を確認することができます。

学術活動としては、専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本程度行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は、全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

③ 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)の獲得には、専門的知識・技能だけでなく、その礎となる医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー:診療態度、医療人としての職業倫理、エビデンスの活用など)が重要であると考えています。そのため、どの領域から研修を開始しても専門的な知識や技能だけではなく、これらの基本能力を身につけることを重視しています。本プログラムでは専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって、医師として必要なこれらの能力を早期に習熟することを目標としています。

東京大学医学部附属病院および各連携施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

5. 専門研修の評価について

① 形成的評価

1) フィードバックの方法とシステム

専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表(資料 5)の自己評価欄に行動目標毎に自己評価を行います。また指導医評価表(資料 6)で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後に、カリキュラム成績表(資料 5)の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度評価を記載します。これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムから web で入力します。

各施設の指導医は、抄読会や勉強会を通じて専攻医が最新の医療情報を修得する手助けをし、カンファランスの際には教育的な建設的フィードバックを行うことを心がけます。

2) 指導医層のフィードバック法の学習(FD)

指導医は、厚生労働省および日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、研修プログラムをより良いものにするように努めます。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案(研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成)、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

② 総括的评价

1) 評価項目・基準と時期

専門専攻研修 4 年目の 3 月に、研修期間中の「研修目標達成度評価報告」と「経験症例数報告」に基づいて総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを修得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3) 修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。修了認定基準は、

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること(別添の専攻医獲得単位報告書(資料 7)を提出)。
- ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること

iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること

v. 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること
の全てを満たしていることです。

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表(資料 8)に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

6. 研修プログラムの施設群について

下表の 40 病院が連携病院です。
(※は独自のプログラムを持つⅡ型基幹病院)

東京都内の主要病院と近隣県の中核病院を
ローテーションするプログラムです。地域医療
連携施設であっても多くの症例を経験できます。

東京都(22)	神奈川県(6)
都立墨東病院 武蔵野赤十字病院 都立多摩総合医療センター※ 都立広尾病院 日赤医療センター JR東京総合病院 国立国際医療研究センター JCHO 東京高輪病院 三宿病院 JCHO 東京山手メディカルセンター 関東中央病院 東京逡信病院 東京都健康長寿医療センター 三井記念病院 虎の門病院 都立北療育医療センター 東芝病院 NTT 東日本関東病院 三楽病院 都立駒込病院 心身障害児総合医療療育センター JCHO 東京新宿メディカルセンター	関東労災病院 横浜労災病院 虎の門病院 分院 国立相模原病院 東芝林間病院 JCHO 湯河原病院
	埼玉県(5)
	さいたま赤十字病院 国立障害者リハビリテーションセンター 自治医科大学さいたま医療センター 埼玉県総合リハビリテーションセンター 埼玉医科大学総合医療センター※
	茨城県(2)
	茨城県立中央病院 日立総合病院
	千葉県(1)
	おおたかの森病院
	静岡県(2)
	焼津市立総合病院 静岡県立こども病院
	長野県(1)
	浅間総合病院
	栃木県(1)
	自治医科大学附属病院※

7. 専攻医受入数について

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限(4 学年分)は、当該年度の指導医数×3/4 となっています。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。またプログラム参加施設の合計の症例数で専攻医の数が規定され、プログラム全体での症例の合計数は、(年間新患数が 500 例、年間手術症例を 40 例) × 専攻医数とされています。

この基準に基づき、専門研修基幹施設である東京大学医学部附属病院整形外科と専門研修連携施設全体の指導医数は 165 名、年間新患数 90,000 名以上、年間手術件数およそ 30,000 件と十分な指導医数・症例数を有しますが、質量ともに十分な指導を提供するために、1 年 24 名、4 年で 96 名を受入人数とします。

8. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度の目的の一つは地域の整形外科医療を守ることです。本研修プログラムで専攻医は、地域に密着した地域医療研修病院に常勤医、あるいは非常勤医として3カ月(3単位)以上勤務することにより、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また周囲医療機関との病病連携、病診連携を経験・修得します。

地域において高度な指導の質を保つため、地域医療研修病院の指導医は、基幹病院と密接な連携をとるとともに、学会や東京大学整形外科同門会が主催する研究会へ積極的に参加することで自己研鑽に努めます。そしてカンファランスや抄読会などを通して、専攻医に対して正確で高度な医療知識・技術の指導を行います。また指導医は研修プログラム管理委員会に参加するとともに、自らが指導した専攻医の評価報告を行います。同時に、専攻医からは指導医の逆評価が研修プログラム管理委員会に提出することにより、指導医と専攻医がお互いに評価・研鑽する体制をとります。

9. サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域としては、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本手外科学会専門医等があります。東京大学整形外科研修プログラムには、これらのサブスペシャリティ領域の研修病院が複数含まれており、専門医教育と平行して、サブスペシャリティ領域への連続的な育成に配慮しています。またそれ以外にも膝関節外科、股関節外科、スポーツ整形外科、外傷、足外科等のサブスペシャリティに対する指導体制が充実しており、専攻医が希望するサブスペシャリティ領域について、より専門的な技術・知識を修得することができます。また基幹病院における各サブスペシャリティ領域の専門外来への参加も推奨されます。サブスペシャリティグループごとに、より専門的な知識修得のための勉強会や抄読会を定期的に開催しており、専攻医はこれらに自由に参加できます。専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加は強く推奨されます。希望者には、サブスペシャリティ領域における学会発表や論文作成を指導医がサポートします。

10. 整形外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間、合計 6 カ月以内とします。限度を超えたときは、原則として不足期間分の追加履修が求められます。疾病の場合は診断書の、妊娠・

出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学や診療実績のない大学院の期間は、研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6カ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が遅れる場合もあります。

専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

11. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である東京大学医学部附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては、指導管理責任者および指導医の協力により、専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には、添付した日本整形外科学会作成の指導医評価表や、専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、指導医と専攻医が互いにフィードバックすることによって、研修プログラムの改善に努めます。

上記目的達成のために、専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する**整形外科専門研修プログラム管理委員会**を置き、年に一度委員会を開催します。プログラム管理委員会はプログラム統括責任者、副プログラム責任者と各連携病院の連携施設研修管理責任者で構成されています。

② 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設によって異なり、それぞれの病院規定に従いますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- 1) 研修施設の責任者は、専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は、専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 4) 施設の給与体系を明示します。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は専門研修プログラム管理委員会に報告されます。そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

① 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として、別添資料の日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムを用いて、整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価、及び症例登録をweb入力で行います。日本整形外科学会非会員は、紙評価表を用います。

② 医師としての適性などの評価法

指導医は、別添の研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で、各専攻医の医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表（資料8）を用いて、入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

③ プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル（資料9）、②整形外科指導医マニユア

ル(資料10)、③専攻医取得単位報告書(資料7)、④専攻医評価表(資料8)、⑤指導医評価表(資料6)、⑥カリキュラム成績表(資料5)を用います。③、④、⑤、⑥は整形外科専門医管理システムを用いてweb入力することが可能です。日本整形外科学会非会員の場合、紙評価表、報告書を用います。

1) 専攻医研修マニュアル

日本整形外科学会が作成した整形外科専攻医研修カリキュラム(資料3)と整形外科専攻医研修マニュアル(資料9)を参照ください。自己評価と他者(指導医等)評価は、整形外科専門医管理システム(作成中)にある④専攻医評価表(資料8)、⑤指導医評価表(資料6)、⑥カリキュラム成績表(資料5)を用いてweb入力します。

2) 指導者マニュアル

日本整形外科学会が作成した別添の整形外科指導医マニュアル(資料10)を参照ください。

3) 専攻医研修実績記録フォーマット

整形外科研修カリキュラム(資料3)の行動目標の自己評価、指導医評価及び経験すべき症例の登録は日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムを用いてwebフォームに入力します。非学会員は紙入力で行います。

4) 指導医による指導とフィードバックの記録

日本整形外科学会の整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表、指導医評価表webフォームに入力することで記録されます。非学会員は紙入力で行います。

5) 指導者研修計画(FD)の実施記録

指導医が日本整形外科学会主催の指導医講習会等を受講すると、指導医に受講証明書が交付されます。指導医はその受講記録を整形外科専門研修プログラム管理委員会に提出し、同委員会はサイトビジットの時にこの記録を提出できるようにします。受講記録は日本整形外科学会でも保存します。

13. 専門研修プログラムの評価と改善

① 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時(指導医交代時)に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより、研修プログラムの改善を継続的に行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

研修プログラム管理委員会は、専攻医が指導医や研修プログラムに対する評価を行うことで不利益を被ることがないように保証します。

② 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査(サイトビジット)に対して、研修プログラム統括責任者および研修連携施設の指導管理責任者、ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応し、指摘事項に従ってプログラムの改善に努めます。専門研修プログラム更新の際には、評価の結果と改善策について、日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

14. 専攻医の採用と修了

① 採用方法

1) 応募資格

初期臨床研修修了見込みの者であること。

2) 採用方法

基幹施設である東京大学医学部附属病院整形外科におかれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年7月頃より説明会などを複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『東京大学整形外科専門研修プログラム応募申請書』、履歴書、医師免許(コピー)などを提出します。申請書は

- i. 東京大学医学部附属病院整形外科のホームページ (URL <http://www.u-tokyo-ortho.jp/>)よりダウンロードしてください。
- ii. 電話で問い合わせ(03-5800-8656)
- iii. e-mailで問い合わせ(tkyort-tantou@umin.ac.jp)、のいずれの方法でも入手可能です。

原則として9月中に書類選考および筆記試験・面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については12月の東京大学整形外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

② 修了要件

プログラムの修了要件は下記のとおりです。

- 1) 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- 2) 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- 3) 臨床医として十分な適性が備わっていること。
- 4) 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
- 5) 1回以上の学会発表を行い、筆頭著者として1編以上の論文があること。

以上1)～5)の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の3月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

連携施設一覧:新患数・手術件数(2017)

施設名称	都道府県	新患数 (2017)	手術数(2017)								
			脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	計
東京大学医学部附属病院	東京都	2033	350	228	358	183	50	50	46	117	1382
関東労災病院	神奈川県	10694	453	525	436	523	4	1163	57	26	3187
横浜労災病院	神奈川県	3592	398	386	244	990	12	22	48	32	2132
東京都立墨東病院	東京都	1463	53	218	222	162	0	18	12	15	700
武蔵野赤十字病院	東京都	4310	531	143	439	537	2	67	68	9	1796
東京都立多摩総合医療センター	東京都	4044	77	212	360	459	98	44	0	6	1256
東京都立広尾病院	東京都	3863	29	369	98	253	2	27	17	5	800
日本赤十字社医療センター	東京都	6216	483	95	276	270	2	35	5	18	1184
JR東京総合病院	東京都	4589	0	369	753	337	5	130	10	22	1626
国立国際医療研究センター病院	東京都	1057	39	38	323	271	0	11	9	15	706
JCHO 東京高輪病院	東京都	3110	3	301	36	210	1	44	0	7	602
国立病院機構 相模原病院	神奈川県	1878	160	219	236	246	188	17	27	13	1106
三宿病院	東京都	2073	92	71	79	191	0	27	0	8	468
JCHO東京山手メディカルセンター	東京都	2185	155	34	162	129	10	69	3	29	591
公立学校共済組合関東中央病院	東京都	1540	66	43	13	314	0	4	0	8	448
東京通信病院	東京都	2058	0	0	0	157	1	175	5	11	349
東京都健康長寿医療センター	東京都	1354	108	54	161	152	3	0	0	6	484
三井記念病院	東京都	1137	291	64	158	151	20	0	0	0	684
虎の門病院	東京都	1202	107	140	216	14	3	0	0	11	491
虎の門病院 分院	神奈川県	649	30	218	91	74	10	1	1	7	432
東芝林間病院	神奈川県	2643	19	36	135	139	0	59	19	11	418
東京都立北療育医療センター	東京都	231	0	1	0	0	0	0	6	0	7
NTI東日本関東病院	東京都	1865	268	145	201	160	2	1	1	5	783
三楽病院	東京都	4000	370	30	60	50	12	10	3	5	540
JCHO湯河原病院	神奈川県	196	35	175	309	97	53	8	0	3	680
東京都立駒込病院	東京都	1563	225	16	111	78	2	0	0	363	795
心身障害児総合医療療育センター	東京都	328	0	0	0	0	0	0	182	0	182
JCHO東京新宿メディカルセンター	東京都	1000	289	0	0	0	0	0	0	0	289
焼津市立総合病院	静岡県	1216	2	15	102	353	0	0	0	0	472
佐久市立国保浅間総合病院	長野県	3102	158	152	142	270	0	98	1	6	827
茨城県立中央病院	茨城県	1542	68	72	176	321	2	25	6	8	678
株式会社日立製作所日立総合病院	茨城県	695	236	167	291	414	2	7	21	28	1166
埼玉県総合リハビリテーションセンター	埼玉県	950	14	4	42	3	1	0	0	1	65
おおたか森病院	千葉県	5050	0	51	60	281	0			32	424
さいたま赤十字病院	埼玉県	3599	388	421	649	807	31	127	2	49	2474
国立障害者リハビリテーションセンター	埼玉県	667	0	1	12	3	0	0	0	0	16
静岡県立こども病院	静岡県	612	1	5	161	20	0	0	0	15	202
自治医科大学さいたま医療センター	埼玉県	683	10	24	34	115	0	24	11	202	420
自治医科大学	栃木県	1703	139	34	85	107	10	5	93	39	512
埼玉医科大学総合医療センター	埼玉県	4438	386	384	476	403	15	61	62	6	1793

次頁以降に連携施設の一部をご紹介します。

東京都立多摩総合医療センター

所在地：東京都府中市武蔵台 2-8-29

病院の特徴：東京ドーム 4.5 個の敷地面積を有する多摩メディカルキャンパス内の中心的な病院です。約 400 万人を抱える多摩地域の広域拠点病院で、救急医療、がん医療、周産期医療をはじめとして、ほぼすべての分野において高水準で専門性の高い医療を提供しています。救急車搬送年間約 8000 台と全国でも有数です。病床数 798 床のうち、整形外科関連病床は 62 床あります。当科は東京 ER や救急救命センター、リウマチ膠原病科、小児総合医療センターと連携を行い 24 時間 365 日の対応ができる体制を整えています。幸いなことに当院には多くの専門診療科や多職種の専門家がおり守備範囲が広く、合併症や重篤なケースに対応できる協力体制が整備されています。このことは、特定の病気治療に特化した病院に比べて特筆すべき点だといえます。当科は高度な医療の提供をめざすと同時に、地域連携や地域包括ケアを視野にいたした地域医療ネットワークに貢献できるよう取り組んでいます。



北東から



北西から俯瞰（多摩メディカルキャンパス）

得意な分野・手術：関節外科・脊椎外科・外傷・難治性骨折・手の外科・スポーツ外傷

手術件数（2017 年）：2017 年は合計 1256 件：中央手術室 123 件（人工股関節置換 172 件、人工膝関節置換 118 件、脊椎 77 件、外傷 459 件など）、外来手術室（手根管症候群、経皮ピンニングなど）。

整形外科：13 人、リウマチ外科 2 人、リハビリテーション科：3 人

<http://www.fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp/about/department/orthopedics/>

東京都立墨東病院

所在地：東京都墨田区江東橋 4-23-15

病院の特徴：区東部に位置する救急医療と高度専門医療に重点をおく総合病院です。ER や救命救急センターでは、外傷を中心に診療しています。整形外科では、変性関節疾患、脊椎疾患、手の外科、肩関節疾患、足の外科、小児整形外科疾患など幅広い分野を診療しています。

リウマチ膠原病科では、関節リウマチの治療を行っています。東京大学整形外科医局の医師を中心に、合計 16 名の整形外科医師で診療しています。幅広い分野での臨床研修が可能です。



得意な分野・手術：人工関節、脊椎、手の外科、靱帯再建、外傷

手術件数（2017 年）： 700 件

虎の門病院

病院の特徴：虎の門病院は、国家公務員共済組合連合会の中核的医療施設として昭和 33 年に設立されました。以来、広く国家公務員以外の方々にも開かれた病院となっています。最新の設備を導入し、充実したスタッフのもとで医療、医学上の各分野で成果を上げるべく努力を重ねております。各専門診療科の協調でより集中的で高水準の治療環境を実現し、高度先進医療を担う病院として高い評価をいただいております。

整形外科は、人工関節置換術は股関節、膝関節いずれも筋肉をきらない最小侵襲手術を行い、脊椎は内視鏡による最小侵襲手術を積極的に行っています。上肢外科では手根管症候群にたいして内視鏡による開放術、CM 関節症にたいして再建術を行っています。

得意な分野・手術：人工関節、脊椎、手の外科

手術件数（2017 年）：923 件

所在地：東京都港区虎ノ門 2-2-2



ホームページより



最小侵襲人工股関節全置換術

国立国際医療研究センター病院

病院の特徴：昭和 4 年に陸軍病院として開設され、ナショナルセンターの中核として今日に至る歴史ある病院です。新宿区戸山の丘の上に位置し、広々とした敷地の中に病院、研究所、職員寮がゆったりと配置されています。病床数は 781 で、都内に限らず時には遠方からも患者さんが紹介されてきます。43 の診療科には数多くの疾患に対する専門医を擁し、垣根を感じることもないコンサルテーションができるのも強みです。全国から集まった臨床研修医が毎年 30 名以上、いきいきと研修しており、整形外科では、外傷やスポーツ障害、脊椎や関節の変性疾患など、バラエティに富んだ症例を対象に、指導医と専攻医がペアになって方針を検討し、治療を進めていきます。

所在地：東京都新宿区戸山 1-21-1



得意な分野・手術：人工関節

手術件数（2017 年）：706 件

東京都健康長寿医療センター

所在地：東京都板橋区栄町 35-2

病院の特徴：東武東上線で池袋から3駅目、大山駅から徒歩4分、都営三田線板橋区役所前駅から徒歩11分にあります。

当院は高齢者医療および老年学・老年医学研究の拠点として、高齢者の健康増進、健康長寿の実現を目指しています。整形外科・脊椎外科には、8名の常勤医がおり、高齢者の関節疾患、脊椎・脊髄疾患、外傷、絞扼性神経障害等を幅広く扱っています。



得意な分野・手術：関節外科(人工膝関節、人工股関節)、脊椎外科(頸椎椎弓形成、腰椎椎弓切除、経皮的椎体形成術)、大腿骨頸部骨折(人工骨骨頭置換術、骨接合術)、末梢神経外科(手根管症候群)

手術件数(2017年)：484件

日本赤十字社医療センター

所在地：東京都渋谷区広尾 4-1-22

病院の特徴：当センターは全国にある日本赤十字社の旗艦病院で、都内でも有数の大型総合病院です。渋谷、恵比寿、六本木からほど近い広尾の住宅街にあり、アクセスは地下鉄日比谷線広尾駅から徒歩10分、渋谷駅または恵比寿からバスで15分程度と良好です。

整形外科では脊椎疾患、関節疾患、外傷性疾患(骨折)主に扱っています。

整形外科のスタッフは総勢15名で脊椎整形外科と骨・関節整形外科で分かれています。カンファレンスや外来診療や救急対応などは共同でおこなっており、専門分野の特化と整形外科一般治療の標準化、情報の共有を両立させています。東大整形外科医局のスタッフがメインですが、他大学医局(金沢大学、昭和大学)からの派遣されているスタッフ等も勤務しています。

当院での整形外科専攻医研修の特徴は、幅広い疾患と豊富な症例を、高度なレベルの指導医から指導を受け、手術治療においては自ら執刀などしながら経験できることです。



得意な分野・手術：脊椎疾患(脊椎一般、矯正骨切り手術、内視鏡手術)、人工関節置換手術(股関節、膝関節)、膝・スポーツ外傷(靱帯再建)、外傷手術(骨折治療)

佐久市立国保浅間総合病院

所在地：長野県佐久市岩村田 1862-1

病院の特徴：北陸新幹線佐久平駅(東京駅から約 70 分)より徒歩 10 分(1 km)に位置する当院は、1959 年 6 月に開院しました。初代院長は東京大学冲中内科より派遣された吉澤國雄先生です。今でこそ糖尿病治療の一つとして定着しているインスリン自己注射ですが、それを「長野方式」として広めたのは吉澤先生です。現在、一般病床 243 床、医療型療養病床 40 床、介護型療養病床 40 床の合計 323 床で、2008 年より DPC 対象病院となり、2 次救急と 3 次救急の中間の 2.5 次救急まで対応できる急性期病院としての医療体制と、療養病床を持ち在宅訪問看護も行う医療・介護・福祉のケアミックス型病院です。佐久市は約 10 万人の人口ですが、医療圏としては 20 万人を対象としています。当院のある浅間地区は新幹線佐久平駅から近いこともあり、この 10 年で 3000 人以上人口が増加しており、商業施設も整って住みやすい環境です。整形外科医は 6 名で、医局は他科の先生と共同の総合医局で他科依頼がしやすい状況です。

得意な分野・手術：手術は整形外科では外傷、変形性膝・股関節症(人工関節)、肩関節(関節鏡視下腱板修復)・膝関節(半月損傷・靱帯損傷など)、手外科、脊椎疾患(MED,MEL などの内視鏡手術、腰部脊柱管狭窄、腰椎すべり、頸椎症性脊髄症など)、骨粗鬆症など、悪性骨軟部腫瘍を除くほとんどの疾患に対応しています。

手術件数(2017 年)：827 件



新中央棟

独立行政法人国立病院機構相模原病院

所在地：神奈川県相模原市南区桜台 18-1

病院の特徴：東京第三陸軍病院として創設され、現在は相模原市南部の基幹病院としての診療と、政策医療のリウマチ疾患分野での高度専門施設という特性を併せもち、リウマチ・関節外科、脊椎外科、上肢・手外科を 3 本柱として取り組んでいる。

手術では、膝、股関節以外に肩、肘、手指、足関節などの人工関節置換術、変形性脊椎症、側弯症等の脊椎脊髄障害に対する脊椎手術、リウマチ手足などの機能再建術、関節鏡など低侵襲手術を含めた多様な上肢・手外科などを特徴とし、術式や器械の改良を重ねている。一例として当院発の「藤式人工肘関節(K-elbow)」は、世代を重ねて改良され、



得意な分野・手術：リウマチ・関節外科、
脊椎外科、上肢・手外科

手術件数（2017年）：1106件

関東労災病院

所在地：神奈川県川崎市中原区木月住吉1-1

病院の特徴：病院のある川崎市中原区は多摩川沿いに23万人の人口で、何処に出るのも便利なJR南武線、横須賀線、湘南新宿ライン、東急東横・目黒線、地下鉄副都心・南北・三田線が乗り入れるターミナル駅（13路線288駅利用可能）の武蔵小杉（全国住みたい町ランキング6位）と東横線元住吉駅の間位置する。610床、33診療科を有する地域のランドマーク病院たる急性期総合病院。

地域医療貢献と労災患者救済を目的に京浜重工場地帯川崎に開院当初より整形外科を中心に設立、スポーツ整形外科は日本初の標榜科としても有名、伝統を誇る。本年は開院60周年。スポーツ整形外科、脊椎外科、関節外科、手の外科、外傷骨折、脚延長・四肢再建分野で年間約3000件の手術件数は全国屈指。整形外科医は現在28名在籍。東大、横浜市大、産業医大、昭和大、北大などの多くの派遣大学医局員と病院研修医が所属意識を越えて“患者のために”の高邁な精神にて集い、臨床研究にも従事参画。

得意な分野・手術：スポーツ整形外科、脊椎外
関節外科、手の外科、外傷骨折、脚延長・四肢

手術件数（2017年）：3187件



国家公務員共済組合連合会 三宿病院

所在地：東京都目黒区上目黒5-33-12

病院の特徴：田園都市線池尻大橋駅、東横線
祐天寺駅から徒歩圏内ですが、患者さん用には三軒茶屋駅、祐天寺駅より病院の無料送迎バスがあります。住宅地にあり、比較的高齢者の受診が多く、脆弱性骨折に伴う手術や変性疾患による手術を多く行っています。東大、昭和大学から医師が派遣され、自衛隊中央病院からは研修医官が派遣されています。また院内には職員家族用の保育施設があります。



東京都立広尾病院

所在地：東京都渋谷区恵比寿 2-34-10

病院の特徴：東京都心部の渋谷、六本木、恵比寿などに程近いエリアに立地しています。最寄り駅は東京メトロ日比谷線広尾駅です。東京都の基幹災害医療センターの1つであり、救急医療や島嶼医療などの特色があります。島嶼部の患者をドクターヘリで搬送し、屋上のヘリポートで受け入れることもあります。整形外科医は常勤医 11 名で、365 日・24 時間の緊急手術に対応しています。勿論、一般病院同様に、外来入院診療や手術治療も行っております。

得意な分野・手術：

外傷・手外科・末梢神経外科・脊椎外科

手術件数（2017 年）：800 件



東京都立駒込病院

所在地：東京都文京区本駒込 3-18-22

病院の特徴：文京区の閑静な住宅街の中に佇む歴史ある病院です。古くは「駒込ピペット」で知られる感染症の研究所に始まり、現在では東京都のがん拠点病院として最先端の医療を行っています。特に他の病院で接する機会の少ない骨・軟部腫瘍は国内有数の症例数を誇ります。また脊椎腫瘍に対して、術中体外照射や脊椎全摘出術などの世界トップクラスの手技を駆使して、積極的に取り組んでいます。主に脊椎疾患と人工関節を扱う整形外科と、骨・軟部腫瘍に特化した骨軟部腫瘍科とが独立して診療を行っており、定期的にカンサーボードを開催して密に連携しています。学会発表や論文執筆の機会が多く、スタッフは教育熱心ですので、多大な経験が積めると確信します。

得意な分野・手術：脊椎疾患、骨・軟部腫瘍、



東京都立北療育医療センター

所在地：東京都北区十条台 1-2-3

病院の特徴：当センターは、昭和 37 年に開園した肢体不自由児施設である東京都立北療育園を前身とする障害児者の総合医療療育施設です。医療型障害児入所施設・療養介護（旧肢体不自由児施設・旧重症心身障害児施設）・医療型児童発達支援センター（旧肢体不自由児通園施設）・生活介護（旧重症心身障害者通所施設）の他に 50 床の医療病棟と外来部門を併設しています。常勤医師 17 名中、女性医師が 10 名と過半数を占め、女性にも働きやすい環境が整えられています。

整形外科はリハ科との兼務で常勤医は現在 3 名、新患は年間 250 名前後で推移しています。

脳性麻痺などの運動発達遅滞、精神発達遅滞、自閉症スペクトラムなど乳幼児から小児の患者が多いですが、神経内科医が常勤しているため、成人期の脳性麻痺やダウン症、神経難病、脳血管障害の患者の受診もあり、多彩な症例を経験することができます。痙性斜頸、上肢下肢痙縮に対する A 型ボツリヌス毒素療法も実施しています。

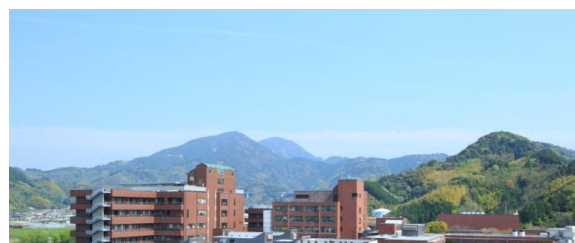
得意な分野・手術：脳性麻痺児に対する下肢腱延長術
手術件数（2017 年）：7 件



静岡県立こども病院

所在地：静岡県静岡市葵区漆山 860

病院の特徴：1977 年に開院した小児専門病院です。静岡県の小児医療最後の砦として、県内はもちろん周辺の県からも患者さんが来院し各科が最先端の治療を行っています。2007 年に全国 3 番目の早さで小児集中治療室が設置され、常時 3 次救急も行って



心身障害児総合医療療育センター

所在地：東京都板橋区小茂根 1-1-10

病院の特徴：昨年度創立 75 周年を迎えた当センターは東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原」駅より徒歩 10 分、総敷地面積約 40000 m²の緑豊かな環境に立地しています。小児整形外科疾患（脳性麻痺、二分脊椎、発達性股関節脱臼、骨系統疾患など）を幅広く対象としています。手術治療とともにリハビリテーションや補装具などの保存的治療も積極的に行っています。常勤整形外科医が 6 名勤務している他、専門領域の専門家 4 名が非常勤医師として外来を担当しています。地域における療育を支援するために、特別支援学校や地域療育施設へのアウトリーチ活動も行い、少子高齢社会である日本における子育てを支える役割を果たしています。



得意な分野・手術：

小児と障害児の整形外科・リハビリテーション。
市中の一般病院では接することの少なくなった小児疾患に数多く接することが出来ます。特に小児股関節と小児足の外科手術を多く手がけています。

手術件数（2017 年）：182 件

JCHO 湯河原病院

所在地：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 438

病院の特徴：湯河原町は伊豆半島の付け根にある、温泉で有名な保養地で、東京から東海道線で 1 時間半程度です。大腿骨頸部骨折や脊椎圧迫骨折の患者を対象とした地域医療に加え、膝関節・脊椎・リウマチのスペシャリストによる専門医療を行っています。例えば膝関節単顆置換術（UKA）、腰椎除圧固定術、人工肘関節置換術などです。関節リウマチに対しては生物学的製剤を用いた治療も行っています。リハビリテーションも充実し、院内で義肢装具を製作しています。海や山に近く、蛍が飛び川が流れています。職員宿舎を利用でき、釣りやハイキングを楽しむことができます。現在は駅からバスで約 10 分ですが、2020 年には町の中心部に移転する予定です。



JR 東京総合病院

所在地：東京都渋谷区代々木 2-1-3

病院の特徴：開設 100 年を超える伝統があり、新宿駅前という非常に立地の良い JR 東日本が運営する企業病院です。ほぼ全ての診療科が揃った総合病院でありながら、他の診療科との風通しも良い丁度良い中規模の病院の快適さがあります。現在、整形外科 9 人全員が東大整形外科の医局に属しています。診療内容は整形外科全般にわたりますが、中でも手外科、股関節外科、膝・スポーツ外科に関しては東京でも有数の症例数と診療レベルを誇り、最先端の診療を続けています。

得意な分野・手術：

手外科、人工関節（股関節、膝関節）、スポーツ医学

手術件数（2017 年）：1626 件



JCHO 東京新宿メディカルセンター 所在地：東京都新宿区津久戸町 5-11-3

病院の特徴：当院は交通の便のよい飯田橋駅から数分の好立地にあり、1952 年東京厚生年金病院として開設されてから一貫して地域医療に貢献してきました。2013 年 4 月の独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）としての再出発に際し、専門性の高い診療科として脊椎脊髄外科が整形外科から独立し、脊椎脊髄疾患の治療に専念できる環境とスタッフをそろえています。



得意な分野・手術：脊椎脊髄手術

手術件数（2017年）：289 件

NTT 東日本関東病院

所在地：東京都品川区東五反田 5-9-22

病院の特徴：NTT 東日本の社会的貢献の象徴として、最新の技術に基づいた最高の医療を提供することを理念としている。各診療科、各部門の専門スタッフによるチーム医療を推進し、適切なリスク管理によって安全な医療を提供することを病院の基本方針としている。こうした実績が認められ、国際病院評価機構（JCI: Joint Commission International）の認定を受けている。整形外科では脊椎外科、手外科、人工関節置換術を専門分野として幅広い診療を行っている。整形外科のスタッフは 11 名で充実した診療体制をとっている。各分野でのレベルの高い専門的な技術を習得することができる。



得意な分野・手術：

脊椎外科、手外科、人工関節置換術

手術件数（2017年）：783 件

東京逡信病院

病院の特徴：

- ・立地・アクセス：JR、地下鉄飯田橋駅から徒歩 6 分、東京の中心部、旧江戸城外濠の内側に面しており、隣が法政大学など周囲は文教地区で、歴史派には靖国神社や東京大神宮、グルメ派には神楽坂が徒歩圏です。
- ・疾患・症例の特徴：元は逡信省、郵政省の職域病院でしたが、現在は日本郵政所属で一般に開放されています。当科は日本の整形外科が世界に誇る技術である関節鏡の発祥の地で、現在もその伝統を引き継いで、膝を中心に関節鏡、スポーツ関連の症例が多くを占めています。
- ・診療体制：スタッフは 8 名、7 名が東大医局、うち 3 名がローテーション。
- ・住環境：妻帯者向け官舎あり。

所在地：東京都千代田区富士見 2-14-23



得意な分野・手術：

関節鏡、膝、スポーツ

手術件数（2017 年）：349 件

東大整形外科 週間予定

全体	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来 手術	カンファレンス:臨床研究 外来 手術	外来 手術	カンファレンス:基礎研究 教授回診 外来・手術	外来 手術	後期研修医 勉強会 (専門診別講義)
午後	手術	専門外来	手術 症例カンファレンス	専門外来	手術	

専門グループ別 週間予定

脊椎	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	手術	脊椎診外来 手術(第3火曜日のみ)		脊椎診外来	手術 脊椎診外来
午後	手術	脊髄造影 その他検査 脊髄損傷ボード(第4週)		脊椎診専門外来 脊椎診臨床カンファレンス 脊椎診基礎ミーティング(第4週 隔月)	手術 脊髄造影 その他検査
リウマチ外科	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	手術		外来	外来	
午後	手術	関節診外来 カンファレンス 症例検討会:院内 年数回	外来		
膝・スポーツ	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	膝スポーツ外来	膝スポーツ外来	手術		(手術)
午後	膝スポーツ外来	膝スポーツ専門外来 膝スポーツ診外来カンファレンス 膝スポーツ診学会予行	手術		手術
股関節	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		股関節外来	手術	手術(第2・4週)	股関節外来
午後			手術	股関節専門外来、症例検討	
手の外科	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	手外科外来	手外科外来	手外科外来		手術日
午後	手外科外来	手外科専門外来 手外科カンファレンス		外来手術	手術日
腫瘍	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	腫瘍外来	腫瘍外来	手術		
午後	腫瘍外来 骨転移Cancer board(第3週)	抄読会(第1,3週) 骨軟部Cancer board(第4週)	手術	腫瘍専門外来 腫瘍カンファ	
足外科	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	手術		足外科外来		足外科外来
午後	手術	Journal Club:院内 1回/1m	足外科専門外来 手術(月1回)		症例検討会:院内 1回/3m
外傷	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		手術(第1・3・5週)	外来	手術(第2・4週)	
午後		手術			
小児整形	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		小児整形専門外来 小児整形カンファレンス	小児整形外来		
午後		骨系統疾患外来	手術(第4週)		症例検討会:院外 1回/3m

東大整形外科 年間予定 (主要なもの)

4月	新人研修(第一週 週末)
	UTSG(関連病院脊椎グループミーティング 土曜日 年4回)
	東京大阪ジョイントミーティング(日本リウマチ学会 会期中)
5月	春の同窓会(日本整形外科学会 会期中)
	医局旅行(5月～6月)
6月	医局研究会
7月	東大股関節研究会(6月～8月のどこか)
	UTSG(関連病院脊椎グループミーティング 土曜日 年4回)
	膝スポーツ診夏の勉強会
	文京整形外科合同セミナー LIEF研究会(創外固定研究会)
8月	東京大学・湘南鎌倉病院・千葉大学合同外傷カンファ
9月	OSCAR: 東大主催 研究会
	骨軟部感染症研究会 (関節診など)
	東大THAセミナー(9月ごろ)
	3病院合同セミナー(外傷グループ) 関節疾患フォーラム (関節診主催)
10月	UTSG(関連病院脊椎グループミーティング 土曜日 年4回)
	脊椎診大学院基礎ミーティング(第四週木曜 隔月)
11月	Tokyo Knee Joint Forum: 東大慶応主催研究会
	東京手の外科手術手技研究会(10-11月)
	赤門足外科研究会:東大足外科診主催 研究会 秋の同窓会(11月23日)
12月	膝スポーツ診冬の勉強会
	医局研究会
1月	関節診研究会
	東京大学・湘南鎌倉病院・千葉大学合同外傷カンファ
	UTSG(関連病院脊椎グループミーティング 土曜日 年4回) 東大股関節研究会(1月～3月のどこか)
2月	骨とリウマチ研究会 (東大と女子医大との共催)
	淡青運動器セミナー: 東大主催 研究会
	赤門膝スポーツフォーラム: 東大膝診主催 研究会
3月	関節疾患フォーラム (関節診主催)
	東大THAセミナー(3月ごろ)
	年次グループ報告会